

第2次茅野市「生きる」自殺対策行動計画（案）に関する
パブリックコメントにお寄せいただいたご意見と市の考え方

『第2次茅野市「生きる」自殺対策行動計画（案）』に係るパブリックコメントを実施したところ、下記のとおり貴重なご意見をいただきました。

いただいたご意見を要約・集約しそれに対する市の考え方等をまとめましたので、公表いたします。

記

○パブリックコメントの実施状況

1 意見の募集期間	2 意見の提出者数と件数		3 意見の提出方法別人数				
	提出者	件数	メール	郵送	F A X	持参	計
令和6年1月16日～ 令和6年2月15日	4名	24件	4名				4名

4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方

NO	ページ	該当箇所（ページなど）	ご意見の内容	市の考え
1・2	P2	4 計画の数値目標 13.4 以下を目指します	目指すべきは前回より低いか、県や国の値に比べてではなく、0であるのが社会の目標である。目標値はわかりますが、理想かもしれませんが0件を目指した活動にしていくことはできないのでしょうか。	基本理念にあるように、「誰も自殺に追い込まれることのない茅野市」つまり自殺者が0人になることが一番の願いです。その実現のためには、現状の把握や取組の結果として、数値化し経年的に見ていくことが必要になると考えます。
3・4・5	P4	③ 事後対応	事後対応→グリーフケアを入れるべきです。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
	P15	基本施策3 生きることの促進要因への支援 冒頭部分	自殺未遂者、遺された遺族支援→グリーフケアを入れるべきです。	
	P16	基本施策3 生きることの促進要因への支援 (5) 遺された人への支援	自死遺族支援をし、連携することで、後追いつながらないよう →ここも具体的にグリーフケアを入れるべきです。	
6	P4	上段文中 また、「事前対応」の中でも、特に基礎となる取組として、学校において、命や暮らしの危機に直面したときに、「誰に」「どのよう	市がこれまでも子どもの居場所推進に取り組んできたこともあり、民間の居場所との連携という言葉も入れるべきと考えます。 県もひきこもり支援に居場所が重要と取り組んでいます。あらゆる居場所が想定され、特に民間の場所などがあることで、日ごろから孤立を防ぐことが予防につながると思います。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。

		に」助けを求めればよいかを学ぶ「SOSの出し方に関する教育」を推進します。併せて、孤立を防ぐための居場所づくり等を推進します。	『孤立を防ぐための居場所づくり等に取り組み、民間の居場所との連携や居場所となるあらゆる場所を意識した取り組みを推進します。』というような記載はいかがでしょうか。	
7	P4	(6) 自殺者等の名誉及び生活の平穏への配慮	自殺対策基本法に、自殺者や自殺未遂者、それらの家族の名誉及び生活の平穏を不当に侵害することのないように、とあえて書かれているのは、やはり、そういうことが有るということ。根気強い教育などで、社会の意識を変わっていくことで平穏が得られると思います。	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。
8	P5	茅野市自殺対策連絡協議会、市民アンケートなどについて	現在の茅野市自殺対策連絡協議会 関係団体に、民間の居場所運営者なども参画したほうが良いと思います。 また、アンケートや調査を行う時に、民間の居場所運営団体（子ども食堂や不登校支援など）にも意見を聞くべきと考えます。 また、グリーンケアを行っている団体が茅野市内にあり、県内でもそうした場所がほぼないため、意見を聞くことや研修等に活かしていくことを進めてほしい。	茅野市自殺対策連絡協議会の中で、今後検討していきます。
9	P9	課題1 男性の自殺者数が多いが、女性の割合が増えてきている	女性の自殺が増えていることの対策として、 1、子育てしづらい状態の根本解決のための話し合いを実際に少数ずつ集まって、色んなところで、何回も行ってみては？ 実際にみんなで話ししているといい具体案が出てくるのでは？とも思うし、その話し合い自体が母親のケアになる。 2、勉強会&お話し会	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。

			講演会なんかもいいのですが、自殺というのはやはり人との希薄な関係というのも原因としてあると思います。 DV、モラハラ、女性の生きがい、仕事の両立、性差別、女性というもののそのものの価値、など、いろいろなテーマをぐるぐる回しながら、勉強会、みんなで対話する会を小規模頻回にいろいろなところとする。自分のことを安心して話できる場と、機会をたくさん作るのが良いと思います。	
10	P10	課題3 自殺の原因はひとつではなく、様々な要因が重なっている	自殺は一つではなく、様々な要因が重なって起きる。ということは、逆に一つでも楽になると自殺を未然に防げるということとも言えるので、何でも、ちょっとしたこと、些細な困りごとでも、普段から気楽に相談したり、おしゃべりしたりできる開放された場所をたくさん作っておけばいいのでは。もしくはいろんなお店に頼んでおく。茅野市のよろずサポート応援団とか、いき心地の良い街ナンバーワン計画とか、なんでもいいのですがそこから市につなげてもらうのはどうでしょう。	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。
11	P11	基本施策1 自殺対策の普及と啓発 (1)心の健康づくりや自殺対策等(生きる支援)の情報や知識の普及啓発について	周知の方法が記載されているが、民間の居場所運営者やさまざまな店舗などに配布することも検討してほしい。 特に相談窓口の周知など、イベントなどでの広報の他、病院関係や飲食店、理美容院など、店舗等や事業者にも配布をお願いしたい。	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。
12	P13	基本施策2 自殺対策を支える人材育成の強化	自殺対策に関連する学習会 ゲートキーパー養成講座だけでなく、メンタルヘルスの様々なテーマのお話を毎月とかやって、メンタルヘルスの意識を変えていくことを目指し	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。

		(1) 自殺対策に関する学習会	てはどうでしょう。 テーマも、児童虐待の心理、DV、モラハラ、フキハラ、思春期のメンタルケア、発達性トラウマ、メンタルのセルフケア方法、メンタルヘルスがどうして大切なのかとか。継続的にやっていると、徐々に変わっていくと思います。	
13	P13	基本施策2 自殺対策を支える人材育成の強化 (2) 学校教育現場における人材育成	「こどもサポートコーディネーター」とは具体的に誰か？	「こどもサポートコーディネーター」とは、各学校で相談窓口となり、調整役を担う教職員のことです。
14	P15	基本施策3 生きることの促進要因への支援 (1) 居場所づくり・生きる楽しみ(生きがい)づくり	子どもの成長を支える居場所、世代間交流ができる場 →ここに「地域子ども食堂」も入れるべきです。民間であります、大変有力な居場所です。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
15	P15	基本施策3 生きることの促進要因への支援 (1) 居場所づくり・生きる楽しみ(生きがい)づくり	0123広場について 孤立した不安を抱える母子の仲間づくりやメンタルケアと考えると、別の小さな居場所作りができたなら良いのではと思いました。 温泉施設、図書館、駅など市民の多くの人々が利用する場所などに心のケアやリラクゼーションなどを簡単に受けられる場を作って、市民全員が使える年間チケットなどで利用してもらおう。そこで、広報もするなど。	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。

16	P16	<p>基本施策3 生きることの促進要因への支援</p> <p>(3) 妊産婦、子育てをしている保護者への支援</p>	<p>妊産婦、子育てをしている保護者への支援→誰がどのように取り組むのでしょうか？特に父親に関しては信大が日本初で始めるところです。「産後ケア」はチームできちんと取り組むべき事です。</p>	<p>産後ケアについては、『母子保健事業における相談支援』として、現在も産科等と連携し取組中です。具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。</p>
17	P16	<p>【主な相談事業】</p>	<p>こどもの第3の居場所との連携 不登校児について、子どもたちの状況をキャッチするのに、すでに不可欠の場所であると考えます。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。</p>
18	P17	<p>【主な相談事業】 労働に関する相談等</p>	<p>産業医の設置義務のない事業者には必要に応じて「企業看護師」などのサポートの周知をすると入れても良いかと思えます。 正直、巡回相談では間に合わないことが考えられます。産業医の設置がある事業者は産業医へ相談すれば良いですが、ない事業者に関しては、企業看護師や産業看護師などの活用も有効だと思います。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。</p>
19	P17	<p>主な相談内容一覧の下文 中</p> <p>(2)～(5)の相談を行う中で下記の必要な支援につなげます。 相談内容により、医療機関との連携（専門医の紹介へつなぐ）、精神保健福祉センターの紹介、自死遺族交流会の紹介、警察署との連携、諏訪保健福祉事</p>	<p>民間の不登校支援や居場所での相談支援、グリーンケアの専門家、そうした民間の取り組みにつなげることは記載できないでしょうか。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。</p>

		務所で行われる「くらしと健康相談会」の紹介、依存症相談の紹介、長野県男女共同参画センターで行われる相談の紹介等を行います。		
20	P20	重点施策1 高齢者対策	何をサポートしてもらうのも手続きなどで時間がかかる、制限があるなどで結局助けを求めることを躊躇してしまう仕組みになっているのでは？ 例えば、もっと現場でさっとその時手伝って欲しいことを最後までやって差し上げられるようなサポートがあればいいのと思います。現場の援助者ヘルパーなどにもっとその場で自由に判断、動くことのできる仕組みなど。	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。
21	P25	重点施策3 こども・若者対策	学校での問題解決能力が低い。 お金も使わず、人員を増やすわけでもなく、いったいどうやって解決しようとしているのか。 昔と違って、不登校児童が増えて問題になっているのだから、それ専門にしっかり子供に時間をかけて関わる教師や専門家を十分な数入れるぐらいのことをしないと、同じことをしていても何も変わっていかないと思います。 外部からたまにカウンセリングの先生が来て対処するというだけではなく、学校の中にどこまでもしっかり関わってくれる人が何人かいる安心感がいいのでは。 教師とはまた違う分野の人を入れてみてもいいのではと思います。	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。

22	P28	重点施策4 勤務問題対策	一人の従業員が病気になり、病気休暇、休職の果てに退職となるとその損失は数百万円といわれています。近年日本では精神疾患が著しく増加、それによる経済的損失はうつ病その他の精神疾患をあわせると8兆円以上になると結果が出ています。企業などには損得勘定を強調し、メンタルヘルス対策によってその損失を防ぐことができることをアピールしつつ、様々なメンタルヘルス教育やメンタルケアの導入を直接的、具体的にサポートしていけるといいのではと思います。	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。
23	P33	茅野市自殺対策連絡協議会	諏訪助産師会や諏訪圏内の産科勤務助産師、諏訪圏域子ども応援プラットフォームなどの子どもの第3の居場所に関連する機関。	茅野市自殺対策連絡協議会の中で、今後検討していきます。
24	全般		一人暮らしの高齢者が子ども食堂や居場所のボランティアに参加するようになり、孤独ではなく誰かにつながり、地域に役立つことの喜びを感じている姿を見えています。ひきこもりがちな若者や子育て中で孤立する方も、同じように民間の居場所で人とのつながりを作っています。そうしたことを活かしていただきたい。	具体的な取り組みを検討する中で参考にさせていただきます。